

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/経開部/1コース
科目名			基礎柔整学V	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			鈴木 勇也	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復学の基礎となる総論部分を理解し、反復して学習することより基礎的な柔道整復術を学ぶ。 また、総論からみた上肢の骨折および脱臼の基礎的な理論を理解し、基本的な柔道整復術を学び各論に結び付けられるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	骨折の総論1		
2	1	2	骨折の総論2		
3	1	2	骨折の総論3		
4	1	2	関節損傷の総論		
5	1	2	軟部組織損傷と診察の総論		
6	1	2	治療法の総論1		
7	1	2	治療法の総論2		
8	1	2	柔道整復学総論全般		
9	1	2	上肢骨折の総論・各論1		
10	1	2	上肢骨折の総論・各論2		
11	1	2	上肢骨折の総論・各論3		
12	1	2	上肢骨折の総論・各論4		
13	1	2	上肢骨折の総論・各論5		
14	1	2	上肢骨折の総論・各論6		
15	1	2	上肢骨折の総論・各論7		
16	1	2	上肢骨折の総論・各論8		
17	1	2	上肢骨折の総論・各論9		
18	1	2	上肢骨折の総論・各論10		
19	1	2	上肢骨折の総論・各論11		
20	1	2	上肢骨折の総論・各論12		
21	1	2	上肢骨折の総論・各論・復習		
22	1	2	上肢脱臼の総論・各論1		
23	1	2	上肢脱臼の総論・各論2		
24	1	2	上肢脱臼の総論・各論3		
25	1	2	上肢脱臼の総論・各論4		
26	1	2	上肢脱臼の総論・各論5		
27	1	2	上肢脱臼の総論・各論6		
28	1	2	上肢脱臼の総論・各論・復習		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 各単元ごとの確認プリント					
評価方法					
単位認定試験のほか授業内で行う試験の結果を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
担当教員は柔道整復の教員資格を持ち、整形外科・接骨院にて5年以上臨床経験を積んでおり、現在も附属接骨院で臨床経験を積んでいる。その経験に基づいて柔道整復学・各論を資格取得後に応用できるような授業を展開する。					

2023年度 授業要項

区分		専門分野		履修学年/学部/コース	第3学年/健康部/1コース
科目名		基礎柔整学VI		履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格		柔道整復師 専科教員		使用教室	第3柔整普通教室
教員名		羽田 哲也		講義形式	講義
学習目標と講義概要		下肢の外傷(骨折・脱臼・軟損)に対する説明ができるようにする。各骨折における発生機序、整復法、固定法、後療法から指導管理に至るまでのプロセス、後遺症の可能性等をきちんと理解し、臨床の現場で患者に対しインフォームドコンセントができるようにする。			
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	骨盤骨骨折①		
2	1	2	骨盤骨骨折②		
3	1	2	大腿骨骨折①		
4	1	2	大腿骨骨折②		
5	1	2	大腿骨骨折③		
6	1	2	大腿骨骨折④		
7	1	2	大腿骨骨折⑤		
8	1	2	膝蓋骨骨折		
9	1	2	下腿骨骨折①		
10	1	2	下腿骨骨折②		
11	1	2	下腿骨骨折③		
12	1	2	下腿骨骨折④		
13	1	2	足根骨骨折①		
14	1	2	足根骨骨折②		
15	1	2	足根骨骨折③		
16	1	2	中足骨骨折、趾骨骨折		
17	1	2	股関節脱臼①		
18	1	2	股関節脱臼②		
19	1	2	膝関節脱臼		
20	1	2	膝蓋骨脱臼		
21	1	2	足部の脱臼		
22	1	2	股関節部の軟部組織損傷		
23	1	2	大腿部の軟部組織損傷		
24	1	2	膝部の軟部組織損傷①		
25	1	2	膝部の軟部組織損傷②		
26	1	2	下腿部の軟部組織損傷		
27	1	2	足部の軟部組織損傷①		
28	1	2	足部の軟部組織損傷②		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 確認、小テストを加味する。 4) 授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編: 南江堂 柔道整復学実技編: 南江堂					
教員について【実務経験有】					
柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/疑問部/1コース
科目名			臨床柔整学Ⅷ	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			木野田 浩平、小林 耕平	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として、正常な運動器の構造と機能を理解し、運動器疾患について説明ができるようにする。 また、柔道整復師が扱える外傷と医科の領分となる疾患の鑑別ができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	身体運動の力学的アプローチ		
2	1	2	運動器の構造と機能①		
3	1	2	運動器の構造と機能②		
4	1	2	神経の構造と機能		
5	1	2	運動感覚①		
6	1	2	運動感覚②		
7	1	2	反射と随意運動①		
8	1	2	反射と随意運動②		
9	1	2	姿勢と外傷①		
10	1	2	姿勢と外傷②		
11	1	2	歩行と外傷①		
12	1	2	歩行と外傷②		
13	1	2	運動発達と運動学習		
14	1	2	前半総復習		
15	1	2	整形外科診察法		
16	1	2	感染性疾患		
17	1	2	骨腫瘍		
18	1	2	非感染性軟部・骨関節疾患		
19	1	2	骨端症		
20	1	2	全身性の骨・軟部疾患		
21	1	2	神経麻痺と絞扼性神経障害1		
22	1	2	神経麻痺と絞扼性神経障害2		
23	1	2	腕神経叢損傷・分娩麻痺		
24	1	2	神経・筋疾患1		
25	1	2	神経・筋疾患2		
26	1	2	神経・筋疾患3		
27	1	2	脊椎疾患1		
28	1	2	脊椎疾患2		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
1) 単位認定試験 2) 出席状況(3分の2以上の出席) 3) 確認試験を50%分とする。 4) 授業態度、提出物等を加味する。 「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編: 南江堂					
教員について【実務経験有】					
(木野田先生) 柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を有し、整骨院での現場実務経験、他の学校での教員経験を活かし授業を行う。 (小林先生) 担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/経理部/1コース
科目名			臨床柔整学Ⅸ	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			小林 耕平、藤田 実	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として各外傷に対して実際の後療法について理解することを目的とする。特に物理療法において、超音波、超短波、低周波、高周波、干渉波、温熱治療器など、電気療法器具の種類や使い方、禁忌を把握し、外傷ごとに適応する器具の選択が速やかにできるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	顔面・頭部損傷における物理療法1		
2	1	2	顔面・頭部損傷における物理療法2		
3	1	2	頸部損傷における物理療法1		
4	1	2	頸部損傷における物理療法2		
5	1	2	頸部損傷における物理療法3		
6	1	2	胸背部損傷における物理療法1		
7	1	2	胸背部損傷における物理療法2		
8	1	2	胸背部損傷における物理療法3		
9	1	2	腰部損傷における物理療法1		
10	1	2	腰部損傷における物理療法2		
11	1	2	腰部損傷における物理療法3		
12	1	2	腰仙骨部損傷における物理療法1		
13	1	2	腰仙骨部損傷における物理療法2		
14	1	2	中間テスト		
15	1	2	解答・解説		
16	1	2	物理療法の分類と安全対策		
17	1	2	物理療法の禁忌と適応考察		
18	1	2	肩部損傷における物理療法1		
19	1	2	肩部損傷における物理療法2		
20	1	2	肩部損傷における物理療法3		
21	1	2	上腕部損傷における物理療法1		
22	1	2	上腕部損傷における物理療法2		
23	1	2	肘部損傷における物理療法1		
24	1	2	肘部損傷における物理療法2		
25	1	2	前腕部損傷における物理療法1		
26	1	2	前腕部損傷における物理療法2		
27	1	2	手部損傷における物理療法1		
28	1	2	手部損傷における物理療法2		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。 (藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/疑問部/1コース
科目名			臨床柔整学 X	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3系整普通教室
教員名			森 俊明	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復師として現場に出た際、患者との信頼関係を構築できる医療人になるために必要な知識を身につけることを目的とする。解剖生理学に関する知識を深め、患者の年齢や職業といった傷病の素因をも考慮して向き合えるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	細胞、組織の種類と特徴1		
2	1	2	細胞、組織の種類と特徴2		
3	1	2	血液の生理1		
4	1	2	血液の生理2		
5	1	2	骨の生理1		
6	1	2	骨の生理2		
7	1	2	循環器系の解剖		
8	1	2	循環器系の生理1		
9	1	2	循環器系の生理2		
10	1	2	呼吸器系の解剖		
11	1	2	呼吸器系の生理1		
12	1	2	呼吸器系の生理2		
13	1	2	泌尿器系の解剖		
14	1	2	泌尿器系の生理1		
15	1	2	泌尿器系の生理2		
16	1	2	消化器系の解剖		
17	1	2	消化器系の生理1		
18	1	2	消化器系の生理2		
19	1	2	栄養と代謝1		
20	1	2	栄養と代謝2		
21	1	2	体温調節1		
22	1	2	体温調節2		
23	1	2	高齢者の生理1		
24	1	2	高齢者の生理2		
25	1	2	発育と発達1		
26	1	2	発育と発達2		
27	1	2	スポーツ競技者の生理学的特徴1		
28	1	2	スポーツ競技者の生理学的特徴2		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
生理学: 南江堂 解剖学: 医歯薬出版					
教員について【実務経験有】					
接骨院にて約6年の経験がある。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/経理部/1コース
科目名			臨床柔整学Ⅺ	履修単位/時間	4単位/60時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第3柔整普通教室
教員名			森 俊明、天和 航平	講義形式	講義
学習目標と講義概要			柔道整復学を理解した上で、臨床の現場で患者との信頼関係を構築し貢献できる医療人になるために必要な知識を身につけることを目的とする。衛生学に関する知識を深めるとともに、臨床でのリハビリテーションへの応用力を身につけさせる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	リハビリテーション医学概論		
2	1	2	障害の階層とアプローチ		
3	1	2	リハビリテーション評価学		
4	1	2	リハビリテーション障害学と治療学①		
5	1	2	リハビリテーション障害学と治療学②		
6	1	2	リハビリテーション医学の関連職種		
7	1	2	リハビリテーション治療技術①		
8	1	2	リハビリテーション治療技術②		
9	1	2	高齢者のリハビリテーション①		
10	1	2	高齢者のリハビリテーション②		
11	1	2	高齢者のリハビリテーション③		
12	1	2	リハビリテーションと福祉		
13	1	2	その他のリハビリテーション1		
14	1	2	その他のリハビリテーション2		
15	1	2	その他のリハビリテーション3		
16	1	2	健康の概念		
17	1	2	疾病予防		
18	1	2	感染症の原因と予防		
19	1	2	消毒		
20	1	2	環境が及ぼす健康被害		
21	1	2	生活環境と健康		
22	1	2	母子保健		
23	1	2	学校保健		
24	1	2	産業保健		
25	1	2	精神保健		
26	1	2	地域保健		
27	1	2	衛生行政と保健医療制度		
28	1	2	疫学		
29	1	2	単位認定試験		
30	1	2	解答・解説		
合計					
30	30	60			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
衛生学・公衆衛生学：南江堂 リハビリテーション医学：南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (天和先生)柔道参段、整形外科での実務経験が約7年。現場で診させていただいて得た知識・技術を基にして、基礎はもちろんのこと、臨床経験も交えながら、授業を展開します。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/後期部/1コース
科目名			応用実技Ⅱ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也、藤田 実、森 俊明	講義形式	実技
学習目標と講義概要			歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。上肢骨折および脱臼における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢骨折および脱臼における合併症		
2	1	2	上肢骨折に対する手技療法1		
3	1	2	上肢骨折に対する手技療法2		
4	1	2	上肢脱臼に対する手技療法1		
5	1	2	上肢脱臼に対する手技療法2		
6	1	2	上肢骨折に対する運動療法1		
7	1	2	上肢骨折に対する運動療法2		
8	1	2	上肢脱臼に対する運動療法1		
9	1	2	上肢脱臼に対する運動療法2		
10	1	2	上肢骨折に対する物理療法1		
11	1	2	上肢骨折に対する物理療法2		
12	1	2	上肢脱臼に対する物理療法1		
13	1	2	上肢脱臼に対する物理療法2		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2023年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/学部/コース	第3学年/1年間部/1コース
科目名	応用実技Ⅲ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2実習室
教員名	羽田 哲也、藤田 実、森 俊明		講義形式	実技
学習目標と講義概要	歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。下肢骨折および脱臼における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	下肢骨折および脱臼における合併症	
2	1	2	下肢骨折に対する手技療法1	
3	1	2	下肢骨折に対する手技療法2	
4	1	2	下肢脱臼に対する手技療法1	
5	1	2	下肢脱臼に対する手技療法2	
6	1	2	下肢骨折に対する運動療法1	
7	1	2	下肢骨折に対する運動療法2	
8	1	2	下肢脱臼に対する運動療法1	
9	1	2	下肢脱臼に対する運動療法2	
10	1	2	下肢骨折に対する物理療法1	
11	1	2	下肢骨折に対する物理療法2	
12	1	2	下肢脱臼に対する物理療法1	
13	1	2	下肢脱臼に対する物理療法2	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習				
評価方法				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。				

2023年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/学部/コース	第3学年/健闘部/1コース
科目名	応用実技Ⅳ		履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	第2実習室
教員名	羽田 哲也、藤田 実、森 俊明		講義形式	実技
学習目標と講義概要	歴史ある柔道整復術について理解を深め、先人達が築き上げてきた治療法を習得させることを目的とする。四肢軟部組織損傷における合併症について理解させ、適切な治療計画の選定と手技療法、運動療法、物理療法などの後療法技術を習得させる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	四肢軟部組織損傷における合併症	
2	1	2	上肢軟損に対する手技療法1	
3	1	2	上肢軟損に対する手技療法2	
4	1	2	上肢軟損に対する運動療法1	
5	1	2	上肢軟損に対する運動療法2	
6	1	2	上肢軟損に対する物理療法1	
7	1	2	上肢軟損に対する物理療法2	
8	1	2	下肢軟損に対する手技療法1	
9	1	2	下肢軟損に対する手技療法2	
10	1	2	下肢軟損に対する運動療法1	
11	1	2	下肢軟損に対する運動療法2	
12	1	2	下肢軟損に対する物理療法1	
13	1	2	下肢軟損に対する物理療法2	
14	1	2	単位認定試験	
15	1	2	解答解説	
合計				
15	15	30		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習				
評価方法				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。 (藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。 (羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。				

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/経開部/1コース
科目名			総合実技Ⅱ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也、藤田 実、小林 耕平	講義形式	実技
学習目標と講義概要			高いレベルの専門知識と臨床に直結できる技術力を習得させ、即戦力として社会貢献できる柔道整復師の養成を目的とする。診察および整復における高度な触診技術の重要性について理解させ、骨および筋各部の触診技術を習得させる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	上肢損傷時の細部触診1		
2	1	2	上肢損傷時の細部触診2		
3	1	2	上肢損傷時の細部触診3		
4	1	2	下肢損傷時の細部触診1		
5	1	2	下肢損傷時の細部触診2		
6	1	2	下肢損傷時の細部触診3		
7	1	2	頭・頸・背・腰部損傷時の細部触診1		
8	1	2	頭・頸・背・腰部損傷時の細部触診2		
9	1	2	診察演習1		
10	1	2	診察演習2		
11	1	2	診察演習3		
12	1	2	診察演習4		
13	1	2	診察演習5		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学 実技編:南江堂 柔道整復学 理論編:南江堂					
教員について【実務経験有】					
(小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上整骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					
(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/登壇部/1コース
科目名			総合実技Ⅲ	履修単位/時間	1単位/30時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	第2実習室
教員名			羽田 哲也、藤田 実、小林 耕平	講義形式	実技
学習目標と講義概要			柔道整復師として患者に対して的確な診察および指導が行えるよう、疾病の発生要因に関する知識を深める。診察をもとに得られる情報から予想される疾患について学ぶことにより、患者の生活指導ができるようにする。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	病理学総論		
2	1	2	疾病の一般		
3	1	2	萎縮と変性		
4	1	2	代謝障害、壊死		
5	1	2	血液、リンパ液の循環障害		
6	1	2	高血圧症の原因と注意点		
7	1	2	進行性病変のしくみと形態学的変化		
8	1	2	炎症による形態学的変		
9	1	2	免疫のしくみと異常		
10	1	2	アレルギーの分類と疾患例		
11	1	2	腫瘍の形態学的所見と徴候		
12	1	2	先天性異常と妊婦への対応		
13	1	2	疾病の内因と外因		
14	1	2	単位認定試験		
15	1	2	解答解説		
合計					
15	15	30			
学習方法					
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
病理学:医歯薬出版					
教員について【実務経験有】					
(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。					
(小林先生)担当教員は鍼灸、柔整の資格、柔整の教員資格を有し、本校の卒業生である。本校卒業後、5年以上接骨院にて勤務し、開業も経験しており、経験豊富な教員である。					
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2023年度 授業要項

区分			専門分野	履修学年/学部/コース	第3学年/基幹部/1コース
科目名			臨床実習Ⅲ	履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格			柔道整復師 専科教員	使用教室	臨床実習室
教員名			羽田 哲也、藤田 実、森 俊明	講義形式	実習
学習目標と講義概要			柔道整復師として、様々な臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。 2年次の「臨床実習Ⅰ・Ⅱ」での履修内容を踏まえて、実際の患者に対して病態評価に基づいた施術計画が立てられるようになる。		
回数	コマ数	時間数	学習内容		
1	1	2	柔道整復師とは(目的)		
2	1	2	柔道整復師の業務範囲		
3	1	2	柔道整復師の心得と倫理		
4	1	2	診察		
5	1	2	痛みのメカニズム		
6	1	2	患者への評価		
7	1	2	治療法(冷却・固定等)		
8	1	2	外傷予防		
9	1	2	応急手当		
10	1	2	物理療法		
11	1	2	物理療法		
12	1	2	温熱療法		
13	1	2	温熱療法		
14	1	2	運動療法		
15	1	2	運動療法		
16	1	2	その他の治療方法		
17	1	2	その他の治療方法		
18	1	2	医療事故と医療過誤・ヒヤリハット		
19	1	2	リスク管理		
20	1	2	医療事故における患者への対応		
21	1	2	総まとめ1		
22	1	2	総まとめ2		
23	0.5	1	総まとめ3		
合計					
23	22.5	45			
学習方法					
1) 板書及び説明、解説 2) 資料の配布及び説明、解説 3) 実技実習					
評価方法					
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。					
教科書					
柔道整復学理論編: 南江堂 柔道整復学実技編: 南江堂					
教員について【実務経験有】					
(藤田先生) 担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。					
(森先生) 接骨院にて約6年の経験がある。					
(羽田先生) 柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、整骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。					

2023年度 授業要項

区分	専門分野		履修学年/学部/コース	第3学年/昼間部/1コース
科目名	臨床実習Ⅳ		履修単位/時間	1単位/45時間
教員資格	柔道整復師 専科教員		使用教室	臨床実習室
教員名	羽田 哲也、藤田 実、森 俊明		講義形式	実習
学習目標と講義概要	柔道整復師として、様々な臨床の現場において対応ができるようになることを目的とする。実際の患者に対して、病態評価に基づいた施術計画を説明できるようになる。患者に対して指導管理ができるようになる。			
回数	コマ数	時間数	学習内容	
1	1	2	接骨院の患者のアプローチ	
2	1	2	接骨院の患者のアプローチ	
3	1	2	接骨院の患者のアプローチ	
4	1	2	接骨院の患者のアプローチ	
5	1	2	接骨院の患者への対応	
6	1	2	小児の患者のアプローチ	
7	1	2	小児の患者のアプローチ	
8	1	2	小児の患者のアプローチ	
9	1	2	小児の患者への対応	
10	1	2	高齢者の患者のアプローチ	
11	1	2	高齢者の患者のアプローチ	
12	1	2	高齢者の患者のアプローチ	
13	1	2	高齢者の患者への対応	
14	1	2	スポーツ障害	
15	1	2	スポーツ障害	
16	1	2	スポーツ障害	
17	1	2	スポーツ障害の対応	
18	1	2	整形外科疾患	
19	1	2	整形外科疾患	
20	1	2	整形外科疾患の対応	
21	1	2	総まとめ1	
22	1	2	総まとめ2	
23	0.5	1	総まとめ3	
合計				
23	22.5	45		
学習方法				
1)板書及び説明、解説 2)資料の配布及び説明、解説 3)実技実習				
評価方法				
「学則」及び「学則施行細則」並びに「単位認定試験実施要領」「単位の授与・進級判定要領」「成績評価規程」に準ずる。				
教科書				
柔道整復学理論編:南江堂 柔道整復学実技編:南江堂				
教員について【実務経験有】				
(森先生)接骨院にて約6年の経験がある。				
(羽田先生)柔道整復師、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院臨床現場での実務経験の他、他の学校での教員として教育経験を活かし、授業を進める。				
(藤田先生)担当教員は柔道整復師免許、柔道整復師専科教員資格を持ち、接骨院や整形外科での臨床現場実務経験や他の専門学校での教育経験を活かして授業を行う。				